

環境を整える必要があることに着眼した。

具体的な仕組みとしては、全ての支援機関が共通の支援履歴カードを採用することで、短時間で正確な顧客情報を共有・把握することが可能となった。

起業塾には 女性も多数参加

ものづくりの町である同市が取り組む創業支援策の一つである「あきんど起業塾」「創業スクール」についても、再度触れておきたい。同市が2012年度に実施した調査から、将来域内の事業所数が激減していくという予測結果に基づき、商業分野に的を絞った支援策を実施するという目的で生まれた具体的な試みが「あきんど起業塾」であった。

「入門編」の受講者は、2014年度が14名中7名、2015年度は18名中11名が女性だった。

また、2015年度から開始した創業スクールにおいても、受講者29名のうち12名が女性であった。さらに、29名中13名の受講者が商業分野での創業を検討していた。

「実践編」は、受講者が実際に開業準備を進めることを意図した内容となっており、時間と手間をかけても1・2次審査（書面とプレゼン）を経て、通過できた者に対してのみ、手厚い個別指導と助成を行う。こうした手間のかかる作業を同市が支援メニューに加えていることも、紹介しておきたい。

ネットワークを構成する支援機関で創業希望者の支援履歴が把握できる仕組みを作り、そこから適

時・的確に創業者の状況に応じたサービスを提供しようとする八尾市の取り組みには、創業支援におけるワンストップサービスの実現を図るネットワークにとって参考となるという印象をもった。